



Quad 4-wire クイックスタートガイド

Quad 4-wire

クイックスタートガイド

Green-GO Quad 4-wireを使用すると、外部オーディオシステムとのインターフェイスが可能になります。また、4つまでのGPIOを接続できます。これは、プログラムオーディオやアナウンス、または32チャンネルとプログラムオーディオ、アナウンス、緊急事態、およびGPIOを備えた完全なユーザーベースのエンジンなどの目的に最適です。

特徴

- 4x 4-ワイヤーポート
- 4x 3 pin XLR ライン入力ポート
- 4x 3 pin XLR ライン出力ポート
- 4x 9 pin sub-D GPIO
- 2x イーサコン RJ45 ポート
- 2.2-インチカラーディスプレイ
- PoE (802.3af-2003 standard)搭載

セットアップメニューナビゲーション

エンコーダーを押すと、Green-GO Quad4ワイヤーのセットアップメニューが開きます。メニューに入ると、エンコーダーでメニュー内を移動してパラメーターを設定できます。エンコーダーを押すと、選択が確定します。

セットアップメニューの概要

セットアップメニューには、デバイスを変更するためのさまざまな設定が用意されています。

メニューセクションとその補足オプションについては、以下で詳しく説明します。

4ワイヤーポートを設定する

4ワイヤーポートを設定するには、最初に使用するモードを選択します。ポートを選択し、[ユーザー/モードの設定]まで下にスクロールします。

4-wire Port x

Set User/Mode:

- | | |
|--------------------|--|
| Line in/out | → このポートをGPIOとして設定します。このモードは、常にアクティブなプログラムオーディオ入力や外部アナウンススピーカーシステムなど、より静的なシステムとのインターフェースに使用されます。 |
| Mode: User | → このポートを完全なユーザーベースのポートとして設定します。GPIO入力および出力を使用してルーティング、コール、およびキューをトリガーすることにより、オーディオをこのポートとの間で他の通信システムとの間で送受信できます。現在の設定からユーザーの1人を選択して、このユーザーのすべてのチャンネル設定をロードします。 |

4ワイヤーポートをGPIOとして設定します。

4ワイヤーポートをGPIOとして設定します。これは、Green-GOネットワークにオーディオラインを出し入れするためのシンプルなラインインおよびラインアウトです。たとえば、プログラムオーディオやアナウンスシステムなどです。

Mode: Line in/out

- In** → 4ワイヤーポートの入力を設定します。
- Group** → 入力割り当てられる構成からグループを選択します。
 - AutoGain** → 歪みを避けるためにダイナミック増幅を設定します。使用可能な設定は、低速/中/高速/オフです。AutoGainをオフにすると、最大ゲインがゲインになります。
 - MaxGain** → 入力信号の最大ゲインを設定します。範囲は-12~28dBです。
 - Threshold** 入力のゲート機能を設定します。スレッショルドは、入力信号を送信するために必要なレベルです。編集可能な範囲は、-45~-20dBか、オフになっています。
 - Hold** → 入力のゲートホールド時間を設定します。オプション: Fast / Med / Long / XLong
 - Bandwidth** → この入力に使用する帯域幅を設定します。
 - Normal** → 入力には7kHzの帯域幅が使用されます。
 - Enhanced** → 入力には14kHzの帯域幅が使用されます。
 - In** → 入力の入力ソースを設定します。ライン入力または125Hz~4kHzのテストトーン。
- Out** → 4ワイヤーポートの出力を設定します。
- Group** → 出力が割り当てられる構成からグループを選択します。
 - Output** → イン出力の出力レベルを設定します。使用可能な範囲はMUTE、-42~6dBです。
 - LoopBack** → LoopBackのレベルを0~-39 dBに設定するか、オフにします。

4ワイヤーポートをユーザーベースのポートとして設定します。

ユーザーベースのオーディオ入力および出力として4ワイヤーポートを設定します。オーディオは、複数のチャンネルから同時に送受信できます。ルーティング、キュー、およびコールは、GPIOを介してトリガーできます。

Mode: User

Channels → 4ワイヤーポートの個々のチャンネルを設定および変更します。

1-32 → ユーザーまたはグループを割り当てる32の使用可能なチャンネルの1つを選択します。

ID → チャンネルに割り当てられたユーザーまたはグループのID
Group → チャンネルにグループを割り当てます。
User → チャンネルにユーザーを割り当てます。
None → 割り当てられたグループ/ユーザーをチャンネルから削除します。

Set Label → チャンネルに別のラベルを設定します。

Group → グループラベルを選択します。
User → ユーザーラベルを選択します。
Clear → ラベルセットをクリアする。

Talk → チャンネルのトークモードを設定します。

Disable → チャンネルではalkが無効になっています。

Momentary → 対応するトリガーがアクティブである限り、トークは有効になります。

Latch → トリガーがアクティブになると、トークが有効または無効に切り替わります。

Latch/Momentary → ラッチとモーメンタリの組み合わせ。短いアクティベーションはラッチを切り替え、長いアクティベーションはモーメンタリとして機能します。

Listen → チャンネルのリッスンのオンとオフを切り替えます。

Volume → チャンネルの音量を設定します。範囲は-24dB~12dBです。

Priority → チャンネルの優先度レベルを設定します-[オプション]メニューの[優先度]も参照してください。

Call Send → チャンネルから通話を送信する可能性を有効または無効にします。

Call Receive → チャンネルで通話を受信する可能性を有効または無効にします。

Bandwidth → 入力に使用する帯域幅を設定します。

Normal → 入力には7kHzの帯域幅が使用されます。

Enhanced → 入力には14kHzの帯域幅が使用されます。

An → アナウンスチャンネルとして処理するグループを割り当てます。

Em → 緊急チャンネルとして処理するグループを割り当てます。

Program Audio → 4ワイヤーポートのプログラムオーディオチャンネルを設定します。

Mode → 通常またはローカルIFBを選択します。通常モードでは、を選択できます。

プログラムオーディオチャンネルのGreen-GOネットワークで利用可能なグループの1つ。ローカルIFBは、4ワイヤーポートの入力をこのポートのプログラムオーディオに送信します。このオーディオストリームは、Green-GOネットワークでは利用できません。

Src → プログラムオーディオソースとしてグループを選択します。ローカルIFBでは使用できません。

Vol → プログラムオーディオの音量を設定します。ミュートの範囲、-36dBから12dBです。

Dim → アナウンスや緊急事態を含むチャンネルの1つがアクティブになるたびに、プログラムの音声が減衰します。範囲は0dB~-24 dBで、MUTEオプションがあります。

Audio In/Out

Output → オーディオ出力の出力レベルを設定します。範囲はMUTE、-42~6dBです。

LoopBack → 入力から出力への音声フィードバックの比率を設定します。範囲は0~-39 dBであるか、オフにします。

AutoGain → 歪みを避けるために動的増幅を設定します。使用可能な設定は、低速/中/高速/オフです。AutoGainをオフにすると、最大ゲインがゲインになります。

MaxGain → 入力信号の最大ゲインを設定します。範囲は-12~28dBです。

Threshold → 入力のゲート機能を設定します。スレッショルドは、入力信号を送信するために必要なレベルです。編集可能な範囲は、-45~-20dBであるか、オフになっています。

Hold → 入力のゲートホールド時間を設定します。オプション: Fast / Med / Long / XLong

In → 入力の入力ソースを設定します。ライン入力または125Hz~4kHzのテストトーン

GPIOを設定します。

GPIOメニューで、この4ワイヤーポートのGPIOを設定して、外部通信システムと接続してトリガーすることができます。各4ワイヤーポートには、2つの入力と2つの出力で使用可能な9ピンのサブDコネクタがあります。

In x → 2つの入力のいずれかを設定します。

Func → この入力によってトリガーされる機能を設定します。

Talk → この入力を設定して、Aトークをトリガーします。

Call → 通話をトリガーするようにこの入力を設定します。

Cue → この入力を設定して、アテンション、ホールド、またはGOを確認または送信します。

Option → このトリガーがアクティブなチャンネルを設定します。

Func: Talk → 現在アクティブなチャンネルに回答するか、特定のチャンネルを1つ選択します。

Func: Call → 呼び出すチャンネルを選択します。

Func: Cue → 送信するキュー信号を選択します。

Acknowledge → 着信キューに確認応答を送信します。

Send ATT Chn → 1つの特定のチャンネルに「アテンション」を送信します。

Send Hold Chn → 1つの特定のチャンネルに保留信号を送信します。

Send GO Chn → GO信号を1つの特定のチャンネルに送信します。

Normally → この入力の非アクティブ状態を設定します。

Out x → 2つの出力のいずれかを設定します。

Func → この出力をトリガーする関数を設定します。

Active → アクティブなチャンネルはこの出力をアクティブにします。

Call → 呼び出しはこの出力をアクティブにします。

Cue Receive → キューを受信したときにアクティブになるように出力を設定します。

Talk → ローカルアクティブトークは出力をアクティブにします。

Option → このトリガーがアクティブなチャンネルを設定します。

Func: Active → 任意のチャンネルまたは特定のチャンネルを選択します。

Func: Call → 任意のチャンネルまたは特定のチャンネルを選択します。

Func: Cue Rec → 出力をトリガーするキュー信号を選択します。

Hold → ホールドがアクティブな場合、出力はアクティブです。

Hold Blink → ホールドがアクティブな場合、出力が点滅します。

Att → アテンションがアクティブな場合、出力はアクティブです。

Att Blink → アテンションがアクティブな場合、出力が点滅します。

GO → GOがアクティブな場合、出力はアクティブです。

Go Blink → GOがアクティブな場合、出力が点滅します。

Hold /Att Blink → ホールドがアクティブな場合は出力がアクティブになり、アテンションがアクティブな場合は出力が点滅します。

Hold Blink /Att → ホールドがアクティブな場合は出力が点滅し、アテンションがアクティブな場合は出力がアクティブになります。

Hold /GO → ホールドまたはGOがアクティブな場合、出力はアクティブです。

Att / GO → アテンションまたはGOがアクティブな場合、出力はアクティブです。

- Normally** →この出力の非アクティブ状態を設定します。
Test →現在の出力を手動で一時的に開いたり閉じたりします。

GPIO ピン配置

| | |
|-------------------|--------------------------|
| Pin 1 : +5v | 200mAのソーシングオフが可能です。 |
| Pin 2 : Input 1 | グランドに切り替えて入力1をアクティブにします。 |
| Pin 3 : Input 2 | グランドに切り替えて入力1をアクティブにします。 |
| Pin 4 : Output 1+ | 5mA対応のオープンコレクターのハイサイドです。 |
| Pin 5 : Output 2+ | 5mA対応のオープンコレクターのハイサイドです。 |
| Pin 6 : Ground 1 | GPグラウンド |
| Pin 7 : Ground 2 | GPグラウンド |
| Pin 8 : Output 1- | 5mA対応のオープンコレクターのローサイドです。 |
| Pin 9 : Output 2- | 5mA対応のオープンコレクターのローサイドです。 |

ポートオプションを設定します。

[オプション]メニューで、汎用ポートの設定が行われます。アクティブなチャンネルの優先度とキュー/通話の音量を設定できます。

Options →ポート固有の設定をセットアップする。

Active Time →最後のオーディオアクティビティの後にチャンネルがアクティブになる時間を設定します。範囲は0.5～45.0秒です。

Tone →アラート、キュー、接続ステータス、バッテリーステータスに使用されるオーディオ信号のレベルを設定します。範囲はMAX、-1dB～-48dB、MUTEです。

Priority Dim →優先度の高いチャンネルがアクティブになった場合に、優先度の低いチャンネルの減衰を設定します。範囲は0dB～-24db、MUTEです。

Direct Priority →直接チャンネルの優先順位を設定します。低/通常/高

Direct Volume →ダイレクトチャンネルの音量を設定します。範囲は12db～-36dB、MUTEです。

AutoTalk →チャンネル1～32でオートトークを有効にするか、オフにします。AutoTalkがアクティブになっている場合、他の送信がアクティブになっていないと、使用可能なオーディオが選択したチャンネルに送信されます。

Cue Mode →ポートがキューに応答する方法を設定します。

Normal →ポートは着信に応答しません。

Auto answer →ポートは自動的に保留で応答します。

Ignore →ポートは着信コールを無視します。

4ワイヤーポートの接続タイプを設定します。

Connection →4線式ポートの接続を設定します。

Local connection →このポートをローカルネットワークの通常のGreen-Goデバイスとして設定します。

Remote connection →このポートをブリッジ接続のパッシブ側として設定します。

Password →この接続のパスワードを設定します。パスワードは、接続の両側で同一である必要があります。常に8文字の長さです。

Generate Password →ランダムな8文字のパスワードを自動的に生成します。

Local Port →接続用のTCPポートを設定します。このポートは、接続の両側で同じである必要があります。接続ごとに異なる空きポートを使用する必要があります。

SndBuf →このポートから送信されるオーディオパッケージのサイズを設定します。レイテンシーのジッターが高い接続には、より大きなバッファが必要です。

RecvBuf →着信オーディオパッケージのバッファのサイズを設定します。レイテンシーのジッターが高い接続には、より大きなバッファが必要です。

Save →このポート接続で行われたすべての変更を保存します。これにより、デバイスが再起動します。

Cancel →このポート接続で行われたすべての変更を破棄します。

一般的なデバイス設定

コンフィギュレーションの複製

ローカルGreen-GOネットワーク上のすべてのデバイスは、相互に通信できるように同じ構成である必要があります。

Clone Config → ネットワークからコンフィギュレーションファイルのクローンを作成します。
Configuration File A → コンフィギュレーションファイルAをロードします
Configuration File B → コンフィギュレーションファイルBをロードします。

Factory Default → 工場出荷時のデフォルトコンフィギュレーションファイルをロードします。

ネットワークを設定します。

[ネットワーク]メニューで、内部Green-GOネットワークのネットワーク設定をセットアップできます。

Dynamic → 接続モードを選択します。

ON → 動的IPを使用します。DHCPサーバーがネットワーク上にある場合、これはデバイスにIPアドレスを提供します。DHCPサーバーがない場合、デバイスはリンクローカルIPを自己割り当てします。

OFF → 静的IPを使用します。

IP address → 使用するIPアドレスを設定します。
Netmask → 使用するネットマスクを設定します。
Gateway → 使用するゲートウェイを設定します。

Save → 現在のネットワーク設定を保存します。

Cancel → 現在のネットワーク変更を破棄します。

デバイスオプション

このメニューでは、デバイス固有の設定を変更できます。

デバイスオプション

Exit → このメニュー範囲を離れるのは0.5～5.0秒です。

Backlight → ディスプレイからの時間を設定します。常にオン、または10秒から4時間の範囲です。

Display → ディスプレイの光度を暗いまたは明るいに設定します。

デバイス情報

Info → Quad 4-wireに関する一般情報を表示します

Config : → Quad 4-wireの現在の構成

SN: xxx → Quad 4-wireのシリアル番号

4-wire 4a61 → ファームウェア情報

4-wire 4a61 → ファームウェアバージョン

Nov 16 2018 → ファームウェアビルドの日付

09:32:09 → ファームウェアビルドの時間

IP: xxx.xxx.xxx.xxx → Quad 4-wireのIPアドレス

Mac: xx:xx:xx:xx:xx:xx → Quad 4-wireのMacアドレス

Reset All Settings → すべてのIP、オーディオ、ユーザー、チャンネル設定をリセットします。(構成ファイルは変更されません)

技術仕様

電源: Power over Ethernet (IEEE 802.3af)
寸法: 483mm (19") x 44mm (1U) x 165 mm
質量: 2480 g

一般的な安全上の注意

使用する前に、ユーザーマニュアルのすべての指示(特に安全要件)をお読みください。これらの指示を保存してください-安全と操作の指示は、将来の参照のために保持する必要があります。すべての指示に注意深く従ってください。

クリーニング

ユニットを清掃する前に、接続されているすべての電源ケーブルと信号ケーブルを外してください。乾いた布で拭いてください。ユニットに液体やエアゾールを使用しないでください。

Usage

水や湿気の近くで使用しないでください。-換気口を塞がないでください。換気口は、ユニット内の重要な空気の流れに必要であり、過熱から保護します。-製造元の指示に従ってインストールします。-ユニットの換気スロットに物を挿入しないでください。これらは充電部に接触したり、短絡を引き起こす可能性があります。感電や火災の原因になります。-ラジエーター、ストーブ、その他の熱を発生する装置(アンプを含む)などの熱源の近くに設置しないでください。-雷雨の間、または長期間使用しない場合は、この装置のプラグを抜いてください。不安定な場所に本機を置かないでください。

サービス

すべてのサービスを資格のあるサービス担当者に依頼してください。装置が次のような何らかの方法で損傷した場合、サービスが必要です。電源コードまたはプラグの損傷、液体のこぼれ、装置への落下物、雨や湿気への暴露、異常な動作または落下による損傷。上記のすべての条件で、すぐにメインプラグを外し、販売代理店またはテクニカルサポートに連絡してください。

警告

火災や感電の危険を減らすために
この製品を雨や湿気にさらさないでください

Manufacturers name: ELC lighting b.v.

Manufacturers address: Weerijds 8
5422 WV Gemert
the Netherlands

これにより、製品であることを確認する全責任を負います。

Product Category: Communication equipment

Name of product: Quad 4-wire

この宣言を参照するものはオランダで製造されており、次の製品仕様と統一規格に準拠しています。

Safety : LVD (Low Voltage Directive) 2014/35/EU, EN62368-1

EMC : 2014/30/EG, EN55032

ROHS (II): 2011/65/EU

機器は、機器に付属のマニュアルに従って使用および接続されていることを前提としています。すべての信号入力および出力接続はシールドされている必要があり、シールドは対応するプラグのアースに接続されている必要があります。

Gemert, 20 January 2019

ing. Joost van Eenbergen

